

## 5 . プログラム編集 ( エディタ )

種々のソースプログラムを作成するにはDOS上で機能する何等かのエディタ ( Editor ) を利用する。本システムでは最もよく使われている「MIFES ( マイフェス ) 」 ( インストールしているものは少々Version が古いが ) を利用する。MIFES には様々な機能があるが、ここではプログラム作成、編集に必要な使用法を説明する。MIFES の実行ファイルは「MIFES.EXE」であり、それに「MIFES.HLP」というヘルプファイルがある。MIFES を起動するにはこの「MIFES.EXE」を起動すればよいが、本システムではMIFES への起動パラメータを設定したバッチファイル「EDIT」を作成しているので、それを利用する。

まず、カレントドライブを「A」 ( MIFES では実行中に作業ファイルというテンポラリファイルのカレントドライブに作成するので、できるだけカレントをAとしておく ) におき、次のようにEDITを入力する。

```
A:¥>EDIT
```

MIFES が起動し、下のような水色の初期画面が現れる。

起動パラメータでドライブBのサブディレクトリを表示するようにしているので、「BFILE¥」が表示される ( 何も表示されない場合はドライブBにディスクを入れ、カーソル位置から「B:」を入力する ) 。新しくファイルを作成する時には、上の窓 ( カーソルのある場所 ) にファイル名を入力する。例えば、ドライブBのサブディレクトリ「BFILE」内に「EX5D」 ( 拡張子は付けなくてもよい ) を作成する時には

```
B:¥BFILE¥EX5D
```

と入力しリターンキーを押せば、「新しいテキストです」と表示し、編集画面となる。また、既にファイルがある時には、そのファイルをオープンする。あとはキーボードをたたいてプログラムを作成する。また、既に作成したファイルを修正編集する場合には、ファイルの選択は「カーソル移動キー」で全てできる。4章で作成したBASICプログラム

「EX43.BAS」をオープンするには、まず、初期画面の状態で「カーソル下移動キー」を押すと下窓に表示された「BFILE¥」が反転する（選択されたことを示す）ので、リターンキーを押すと、上窓に「B:¥BFILE¥」が表示される。もう1度リターンキーを押せば「B:¥BFILE¥」の内容が下窓に表示され、青部分に表示された「PATH」が「PATH=B:¥BFILE¥\*. \*」となる。同様にしてカーソル移動キーで選択して目的のファイルをオープンする。ファイル名は編集画面の左上隅に表示される。また、オープンしたファイルの最後にある「EOF」はファイルの終り（End Of File）を表す。

MIFES でのほとんどの編集（コピー等）はキーボード上側に並んでいる「ファンクションキー（f・1）～（f・10）」で行う。誤って違ったキーを押した場合には「ESC」キーを押すことによってほとんどの場合は解除できる。

それでは、ファンクションキーについて順に説明するが、ポップアップメニューでは説明があるので、特殊なものだけ述べる。また、ファンクションキーは単独で押した時と「SHIFT」と合わせて押した場合には機能が異なる。

[ f・1 ] : ファイル関係の操作（ポップアップメニュー1）

E	Save & Quit	: 現テキストのセーブと編集終了
S	Save	: 現テキストのセーブ 編集は継続
Q	Quit	: 現テキストの強制的な編集終了
O	Original file	: 現テキストの編集を最初からやり直す
D	Duplicate	: 現テキストの二重化
R	Rename	: 現テキストのパス名の変更
A	All Save & End	: 全テキストのセーブとエディタの終了
O	End	: 強制的なエディタの終了
I	Insert file	: カーソル行の前にファイルを読み込む
N	New file	: 新しいファイルの編集

「二重化」は既存のファイルを編集する場合にオリジナルと比較しながら行う。

「パス名の変更」はファイル名を変えて編集する（ファイルをコピーできる）。

「新しいファイルの編集」では同時にいくつものファイルをオープンして編集する。

[ SHIFT ] + [ f・1 ] : 各種状態の表示 / 変更（ポップアップメニュー1）

E	EXTENSION	: 拡張メニュー
S	Split	: スプリット形状 [ 上下/左右 ]
N	Number	: 行番号 [ 表示/非表示 ]
C	Column	: 桁位置ゲージ [ 表示/非表示 ]
I	Auto indent	: オートインデント [ ON/OFF ]
D	Dual scroll	: 両画面スクロール [ ON/OFF ]
U	Underline	: カーソル行アンダーライン [ ON/OFF ]
R	CR・LF disp	: 改行文字 [ 表示/非表示 ]
T	TAB disp	: タブ文字 [ 表示/非表示 ]
F	Find mode	: 検索時の英大・小文字 [ 区別/同一視 ]
G	Margin(def)	: デフォルト右マージンの変更 [ 現在=128 ]
M	Margin(tmp)	: 右マージンの一時的変更 [ 現在=128 ]
O	Code table	: キャラクターコード表
1	L-cut buff	: 行カットバッファの表示
2	S-cut buff	: 文字列カットバッファの表示 [ ]
3	D-str buff	: 削除文字列バッファの表示

拡張メニュー（ポップアップメニュー 1）

R	Roll up/dn	: ROLL UP/DOWN 動作 [ジャンプ/スルース]
E	[EOF] Disp	: [EOF]マーク [表示/非表示]
K	Click	: クリック音 [ON/OFF]
M	Macro mode	: シングルステップ実行 [ON/OFF]
B	Backup file	: バックアップ [作成/非作成]
2	Screen mode	: 画面モード [20行/25行]
A	Change alph	: [大文字変換/小文字変換]
C	Compare	: ファイル比較モード [ON/OFF]
O	Overwrite	: 上書きモード動作 [桁対応/文字対応]
G	Guideline	: [行・桁表示/文字コード表示]
N	Number type	: [論理行番号/表示行番号]
F	File name	: ファイル名表示方式の切り換え
H	Hard TAB	: デフォルトハードタブの変更 [現在= 4]
L	Lines/page	: 1 頁あたりの表示行数 [現在= 66]
T	To k-macro	: 英字バッファのキーボードマクロ化
S	Scroll act	: SHIFT+ キーの動作 [高速/超高速]

アンダーラインは現在の設定

[ f・2 ] : 編集テキストの切り換え（ポップアップメニュー 2）

編集テキストの切り換え（変:変更あり <>:読み込み中）	
0	B: ¥BFILE¥EX43.BAS
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
n	New file : 新しいファイルの編集

は現在の表示テキスト， は裏テキスト。表示テキストと裏テキストとの切り換えは「HELP」キーでも可能。

[ SHIFT ] + [ f・2 ] : 子プロセスの実行（ポップアップメニュー 2）

S	COMMAND.COM (EXIT コマンドで戻る)
D	DIR
M	外部マクロコマンドの実行
V	マクロ用ユーザ変数の表示と変更
I	ディスク&メモリー情報の表示
C	カレントディレクトリーの変更
E	コマンドの実行: 標準エラー出力を指定
O	コマンドの実行: 一覧表示機能付
H	コマンドの実行: ヒストリー機能付

[ f・3 ] : カーソル位置の移動 (ポップアップメニュー 3 )

カーソル位置の移動	
T	Top of text : テキストの最初の行へ移動
G	Goto line : 指定する行番号の行へ移動
1	マーク 1=
2	マーク 2=
3	マーク 3=
4	マーク 4=
5	マーク 5=
U	Undo : 直前の削除・ペーストのUNDO
B	Bottom of text : テキストの最後の行へ移動

マークを設定することにより別テキストへも移動できる。同一ファイル内の移動は「ESC」キーを押した後、そのまま行番号を入力しても移動できる。

[ SHIFT ] + [ f・3 ] : 文字列の検索 / 連続置換 (ポップアップメニュー 3 )

文字列の検索 / 連続置換	
F	Find Forward : 文字列の前方 検索
B	Find Backward : 文字列の後方 検索
1	Ruled line 1 : 半角の罫線モード
2	Ruled line 2 : 全角の罫線モード
Q	Replace Query : 文字列の連続置換 : 確認あり
A	Replace All : 文字列の連続置換 : 確認なし
R	Replace Range : 文字列の連続置換 : 範囲指定
C	Replace Continue : 前回の連続置換の再実行

[ f・4 ] : SPLIT (画面分割)

キーを押すことにより現在のテキストと裏テキストを画面分割して表示する。続けて押すことにより画面の切り換えができる。「ESC」を押して「- (マイナス)」を押すことにより画面分割を縦に変更できる (もう一度繰り返せば横分割となる)。

[ f・5 ] : FIND (検索)

[ SHIFT ] + [ f・3 ] : 文字列の検索で入力した文字列を現在のカーソル位置から前方へ検索する。[ SHIFT ] + [ f・5 ] では現在のカーソル位置から後方へ検索する。

[ f・6 ] : SEL (選択)

[ f・7 ] [ f・8 ] [ f・9 ] に対して現在のカーソル位置からの範囲を指定する。そのまま押せば行単位で選択, [ SHIFT ] + [ f・6 ] の場合は文字単位で選択, また, [ SHIFT ] + [ f・6 ] 後にリターンキーを押せば箱範囲指定となる。なお, 範囲の変更はカーソル移動キー (「SHIFT」キーを併用すれば高速) で行う。キャンセルはもう一度 [ f・6 ] を押す。

[ f・7 ] : CUT (切り取り)

[ f・6 ] で選択した範囲をテキスト上から切り取る。切り取られた内容はバッファに保存される。

[ f・8 ] : COPY (コピー)

[ f・6 ] で選択した範囲をバッファに保存する。テキスト上の範囲はそのまま残る。

[ f・9 ] : PASTE (貼り付け)

バッファ ( [ f・6 ] で選択した範囲 ) の内容をテキストに張り付ける。そのまま押した場合は行単位 ( [ f・6 ] ), [ SHIFT ] + [ f・6 ] で選択した時は [ SHIFT ] + [ f・9 ], また, 箱範囲選択の場合には [ SHIFT ] + [ f・9 ] で貼り付け方の選択となる。

[ SHIFT ] + [ f 10 ] : 行のコピー  
カーソル行と同じものを次の行にコピーする。

#### その他のキー

カーソル移動キー :

上下キーでテキストをスクロールする。「SHIFT」キーを併用すれば高速でスクロールする。

「ROLL UP」,[ROLL DOWN]

テキストをスクロールする。「SHIFT」キーを併用すれば高速でスクロールする。

「INS」

文字入力に対して挿入モード(カーソル表示が縦長), 上書きモード(カーソル表示が四角)を切り換える。

「DEL」

カーソル位置の文字を削除する。

「BS」

カーソル位置の前文字を削除する。

[ SHIFT ] + [ ] キー

カーソルをその行の最後(右端)に移動する。

[ SHIFT ] + [ ] キー

カーソルをその行の先頭(左端)に移動する。

[ CTRL ] + [ K ] キー

カーソル位置以降(その行の最後まで)の文字列を削除する。

[ CTRL ] + [ Y ] キー

カーソル位置のある行を削除する。

[ CTRL ] + [ U ] キー

[ CTRL ] + [ Y ] で削除した行を元に戻す。

[ ESC ] の後, 行番号

入力した行番号へジャンプする。

これら以外にも「CTRL」や「ESC」を用いた操作がたくさんあるが, 詳細は「MIFES」のマニュアルを参照されたい。

本システムは日本語変換を組み込んでいる(ATOK\*.SYS)ので, テキストに日本語を入力する場合には, 次のように操作する。日本語文字を入力したい所にカーソルを移動し,

「CTRL」+「XFER」キー

を押す。日本語入力モードとなるので, ローマ字で入力し, 漢字に変換する場合には「スペース」キーを押して行う。希望する文字が現れたらリターンキーを押して確定する。変換を止める時には「ESC」キーを押す。日本語入力モードを終了する時には, もう一度「CTRL」+「XFER」キーを押す。

「MIFES」で編集できるのは, アスキー形式で保存されたファイルである。ディスク上にある拡張子が「EXE」や「COM」等は表示できない。もし誤ってファイルをオープンした場合には, 必ず「強制終了(セーブをしない)」でMIFESを終了すること。セーブして終了すると, それらの実行ファイルは破壊されてしまうので, 注意されたい。また, 編集しないファイルをオープンした時は, できるだけ「強制終了」するように習慣を付けよう。